公益社団法人霧島青年会議所　第四回次年度理事会　議事録

開 催 日：平成３０年１１月１４日（水）

開会時間：２０時００分

閉会時間：２３時００分　予定

開催場所：ＪＣ会館

1. 開会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　板元　幸仁　　君
2. JCIクリード唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　田上　俊介　　君
3. JCIMISSION及びJCI Vision唱和　　　　　　　　木野田　幸平　　君
4. JC宣言文朗読並びに綱領唱和　　　　　　　　　　　　盛田　啓仁　　君
5. 霧島JC未来ビジョン唱和　　　　　　　　　　　　　　鈴吉　美絵　　君
6. ２０１８年度スローガン唱和　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　同上
7. ２０１８年度理事長挨拶

理事長　前田　数馬　君

　お疲れ様でございます。２０１８年度も残１カ月半となって参りました。忘年会シーズンも始まり忙しい中でありますが基本方針・事業計画と頑張って頂けましたらと思います。20２０１８年度も無事にすべての事業を終えることができました。先日の正副は報告関係が多い中で、多くの指摘があり、どのように２０１９年度に引き継ぐかを話しているところでございます。本日は、基本方針が審議となります。２０１９年度が目前に迫り藏元次年度が旗をあげて就航の日が近づいてきております。私の方は、終着の時が近づいてきております。歴代の方々からも伺ってはいたのですが、寂しさや感謝の気持ちでいっぱいであると同時に、大役の中で、もっとこうすればよかったのではないかと反省する部分や、やり残したことを、この学び舎を卒会したあとで何かしら地域に活かしていけるようにしたいと思います。基本方針・事業計画を羅針盤に２０１９年度を盛り上げて頂けましたらと思います。本日もよろしくお願い致します。

1. ２０１９年度次年度理事長挨拶

２０１９度理事長　藏元　国明　君

本日はお集まりいただきありがとうございます。先日、公務にてインドに行っていた重野委員長も帰ってこられ全員そろって理事会を開催できることをうれしく思います。年末も近づき、仕事・行事と忙しいなか、また寒くなって参りましたので体調管理をしながら日々の仕事、ＪＣ活動をして頂けましたらと思います。とある本の中で、「準備を怠るものは、失敗を招く準備している」という言葉があります。言い換えれば準備をしっかりすれば成功するという事だと思います。基本方針いついて他の理事役員に意見を聞きながら形になってきているかと思います。この基本方針・事業計画が意味のあるものなのか。自分の想いや価値観を伝え皆さんの共感を得られるようにしてください。時間も設定しておりますので、皆様の忌憚なきご意見、ご協力を頂きながら進めて参りたいと思います。本日もよろしくお願い致します。

９．２０１９年度次年度顧問挨拶

顧問　竹下　圭一郎君

忙しいなか、皆さんが集まって理事会が開催されることをうれしく思います。副理事長の基本方針についてやり取りをするなかで、今一度自分自身も学ぶ機会を頂くことができており、自分が学んだことを次の世代に繋げていけているのではないかなと思うところでありました。皆さんも色々な言葉を知っていく、その中で言葉の奥にある本質についてこの団体に入って学ばせて頂きました。物事には必ず背景があり原因があるのでそこをしっかり解決しなければいけない。そこを理解しなければどんな運動にも結果は伴わない。今、やりとりをするなかで、まだまだでありますが、本質に近づいていると思います。もっと良いものはないかを考えることで、追及することで本質に近づくことができると思います。理事会は、何かを作る場ではなく、皆さんに共感頂く場である。ここでは、自信をもって作ってきたものをこの場で共感頂くことをもう少し意識してください。木野田副理事長の方針を見るなかで、同じことをやっていて拡大は成功するのか？拡大はこの時代の流れを理解できているのか？青年会議所は何に特化している団体なのか説明を出来ないといけない。ＪＣは政治と経済を学ぶことができることが、この団体の魅力でありいかに地域人を作っていくことが必要でないかと思います。

本日もよろしくお願い致します。

１０． 議長選出

審議事項：２０１９年度理事長　藏元　国明

協議事項、報告事項：専務　　前田大悟

１１．議事録作成人並びに署名人の指名

議事録作成人：橋　正貴

　　　議事録署名人：鈴吉副理事長、重野委員長

１２．出席者及び定足数の確認

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 藏元国明 | 〇 | 鈴吉美絵 | ○ | 木野田幸平 | ○ | 田上俊介 | ○ | 重野隆太 | 〇 |
| 板元幸仁 | 〇 | 盛田啓仁 | ○ | 前田大悟 | 〇 | 南郷英俊 | ○ | 橋正貴 | 〇 |

　　理事１０名中１０名出席により定足数を充たしていることを確認した。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 前田数馬 | 〇 | 竹下圭一郎 | 〇 | 井上正樹 | ○ | 常盤大和 | ○ |

　　役員４名中、４名出席により定足数を充たしていることを確認した。

１３．議題並びに資料の確認

協議事項８件　　連絡・報告事項３件　となっております。

１４．議事録承認の件

田上：確認させて頂きました。誤字、脱字の修正依頼、修正の確認を行いました。

盛田：確認し、不備なきことをご報告させて頂きます。

１５．議題

協議事項　１：副理事長方針　鈴吉美絵くんについて

鈴吉　　：前回、事前配信の指摘と確認・対応させて頂いております。修正が若干見にくいですが、ご意見よろしくお願いします。

前田(大)：こちら事前配信しております。よろしくお願いします。

板元　　：冒頭のＪＣは、霧島ＪＣでしょうか？日本ＪＣでしょうか？

鈴吉　　：霧島青年会議所です。

板元　　：時代背景に関しては、他のロムでもおこっている現状なのでしょうか？ＪＣと

　　　　　すると全国のＪＣを指しているように思いますので説明を頂けますでしょうか？

鈴吉　　：霧島ＪＣとして記載したのですが、読みにくいでしょうか？冒頭はＪＣとしておりますが、次の文の主語を霧島ＪＣとしているので、繋がってくると思いますので、私的にはこのままいかせて頂きたいと思います。

常盤　　：文章の中身は特にないのですが、運営や連携体制など、どこまでが自分たちの職務なのか、責任の所在も含めまして執行部と話しながらすみわけをして頂けましたらと思います。

鈴吉　　：委員長とも話したうえで進めたいと思います。

前田　　：質問です。中段の最後の意味を教えてください。

鈴吉　　：元々リーダーと記載していたのですが、人財ということで自分たちが発信してい

く、地域のことを考えていくという意味でこの様に表現させて頂きました。

井上　　：また、会員が機会を～のところなのですが、社会人基礎力を学ぶ研修を通じて地域の発展に貢献できる～という部分が読み取れなくはないのですが、行いが２回続くので一つにまとめられるのかなと思います。社会人基礎力の機会を通じて～とした方が綺麗な文になると思います。

鈴吉　　：修正します。

竹下　　：組織基盤を図った結果何があるのか教えてください。

鈴吉　　：基盤をつくることで各事業につながっていきます。

竹下　　：であると図りで文章が終わらないと思います。図りは結果ではない。図りどうなるのかを記載してください。また、最後の文も同じ青年経済人になります。で、なく青年経済人となりどうなるのか、考えてください。

鈴吉　　：はい。ありがとうございます。

藏元　　：だいぶ、良い文章になっていると思います。頂いた時間のなかでさらに自分の中に落とし込んで頂けましたらと思います。

鈴吉　　：はい、お時間を頂けることになりましたので、修正のうえしっかりと自分の中に落とし込んできたいと思います。

前田(大)：以上で、副理事長方針　鈴吉美絵くんについて　を閉じさせて頂きます。

協議事項　２：副理事長方針　木野田　幸平くんについて

木野田　　：前回、事前配信の指摘と確認・対応させて頂いております。背景の文字数が足りておりません。その点も次回までに修正させて頂きます。

前田(大)：こちら事前に配信しております。よろしくお願いします。

田上　　：背景に行動力とあるのですが、理事長の所信は行動量でなかったでしょうか？

木野田　：確認不足でした。

藏元　　：これについては、私も行動力が必要、さらに行動量という風に記載していますので、問題ないです。下に行動量が出てくれば尚よいと思います。

井上　　：背景の中で意識を奮起とありますが、何の意識なのか説明と明確にした方が読みやすいと思います。

木野田　：全会員が同じ方向を向いて、霧島ＪＣの目的や存在意義をと考えております。

常盤　　：方向性は良いと思います。今の部分ですが、意識を奮起・存在意義を広めなど言葉の確認と言葉足らずな部分がありますので全体的に読み直し修正してください。

橋　　　：全体的に助詞が抜けている部分がありますので確認のうえ修正してください。

竹下　　：背景に関しては若干の修正で良いと思います。できれば、ＪＣしかない時代というのは修正してください。あと、大項目・小項目を記載しているので２段目はそこをポイントにすると～ために　がしっかりと固まってくると思いますので自分の中でしっかりと背景と２段目のところが串刺しになるようにしてください。

前田　　：霧島ＪＣのファンとありますがイメージを教えてください。

木野田　：入会はしないが、協力や共に発信、推進して頂ける方をイメージしています。

前田　　：ファンって外から見て、愛好家や応援してくれる人。意味合いが違うと思う。今の意味で考えるとフレンドリーとかの方が妥当だと思います。あと、ファンを作りながら率先した行動をしていくというのは繋がらないと思う。

木野田　：わかりやすいように修正してきます。

藏元　　：私の考えをしっかりと伝えられていないのは申し訳なかったと思いますが、監事・顧問・理事長をはじめご意見を頂いたことで良くなっていくのかなと思います。気になったのは、２段目の目的と小結果が繋がらない部分が散見していると思いますのでしっかり読み返し、目的に対して、この手法で良いのか、結果は正しいのかを考えて頂けましたらと思います。

木野田　：はい、そのようにさせて頂きます。ありがとうございます。

前田(大)：以上で、副理事長方針　木野田幸平くんについて　を閉じさせて頂きます。

協議事項　３：副理事長方針　田上　俊介くんについて

田上　　：前回意見と事前配信の指摘について対応させて頂いております。ご意見よろしくお願いします。

南郷　　：改めてなのですが、田上副理事長の地方部のイメージを教えてください。

田上　　：通常３都市以外なのですが、今回は６大都市以外のところで考え、地方から地方部という表現にさせて頂きました。

前田(大)：本日３回目になりますので、濁点等も見て頂けましたらと思います。

田上　　：審議繰り上げ上程　動義

セコンド　橋、鈴吉

全会一致

藏元　　：ご意見ある方いらっしゃいますでしょうか？なければ審議をはからせて頂きます。

棄権０票　反対０票　賛成１０票

審議可決

藏元　　：それでは、副理事長方針　田上　俊介くんについて　は審議可とさせて頂きます。

板元：休憩動議

セコンド：橋・田上

藏元：休憩動議を可とする皆様

全員一致

２１；１０まで休憩を可とされる理事の皆様は挙手をお願いします。

全員一致

前田（大）：それでは再開させて頂きます。

協議事項４：２０１９年度予算（案）について

前田（大）：わたくしの方で説明をさせて頂きます。内訳の表の方で確認頂けましたらと思います。法定福利費を新たに追加し、事務局員さんの労災を計上させて頂いております。また業務委託費に登記委託費を2万円追加しております。そして、まちづくり・広報・例会に広告料収益をそれぞれ追加しております。増減額を０円とさせて頂きました。以上が前回指摘と正副の意見を繁栄のうえ修正点となります。

竹下　　：会員数は３７名であっていますか？

前田（大）：３６名で修正させて頂きます。

盛田　　：出向者のブロック負担金のところで繁昌君の漢字が間違っていると思います。

藏元　　：こちらはブロック・地区はいらないのですが、日本への出向希望者がいる際に対応したいと考えております。

常盤　　：広報事業に関して公益性がある理由を教えてください。

前田(大)：新たな試みとして計上しています。事業バックアップや霧島ＪＣの市民に対して周知する事業としているので、公益の項目に記載しております。

藏元　　：県の通る、通らないは、あるかもですが自分たちの想いとして計上し、判断は県に委ねようと考えております。

常盤　　：その他の事業というか収益事業での対応でよろしいかと思います。自分たちの活動を広めるから公益というのは違うのではないでしょうか？公益比率はあると思いますが、収益事業としてなど、県の方に相談しながら考えてください。

井上　　：確認なのですが協賛をもらって公益性事業にあてるのは領収書だけで良い。例会は収益事業なので、そこに協賛をもらうと監査時に指摘と別途申請が必要です。合わせて県の方に確認していてください。

竹下　　：広報事業という名称がいけないのかと思います。広報は事業にならないので、例えば啓発事業などを県に確認してください。

竹下　　：まず、広報事業と名称がいけないと思う。広報は事業にならない。例えば、～啓発事業などであれば、大丈夫と思うので、もう一度調べて記載してください。

藏元　　：こちらは新たな取り組みですので、県への確認と同時に皆様にご意見もらい修正して参ります。

前田(大)：事務員さんの雇用契約書についてですが、理事長の交代に合わせて来年度の契約を結びたいと思います。

前田（大）：以上で予算書（案）の方を閉じさせて頂きます。

協議事項　５：２０１９年度　委員長事業計画　重野隆太くん（案）について

重野　　：前回、公務にて欠席させて頂きました。ご理解頂きありがとうございました。事業計画の方は、指摘対応しております。確認のうえご指摘頂けましたらと思います。お願いします。

竹下　　：質問です。会員の活動運動に対する意識の差とはどんなところですか？

重野　　：理事役員とフォロワーの意識の差があると考えて記載しております。

竹下　　：どんな意識の差ですか？

重野　　：事業に関しても、どの様な目的であるのか、方向性など理解できていない会員がいると感じ記載しております。

竹下　　：その差の弊害はなんですか？

重野　　：一体感が薄れ影響力が弱まっていると思います。

竹下　　：その根拠は？

重野　　：会員数の低下に表れていると思います。

竹下　　：では、一体感が強まれば会員は増えるのですか？

重野　　：はい。そのように考えています。

竹下　　：なにの担当委員会ですか？何の担いがあるのですか？

重野　　：組織の運営基盤の強化と研修の機会を提供することです。

竹下　　：それは背景でいうとどこを指していますか？

重野　　：組織運営に関しては、一体感が弱まっている部分で、意識の差が生じることで研修の精度が下がるのではないかと考えております。

竹下　　：質問を変えます。機動的な組織とはなんですか？

重野　　：有事の際は、自主的に考え行動できる人財が集まる組織です。

竹下　　：自分で説明していて意味がわかりますか？総務委員会がなぜ２０１９年度設置されたのですか？

重野　　：一体となって運動を行うにあたり扇の要として努めていくことと研修では、社会人基礎力をより身に着けるために頑張ります。

竹下　　：まだしっかりわかっていない。何かが足りないから委員会が設置されている。何が足りないのですか？

重野　　：一体感が足りないです。

竹下　　：では、一体感はどのような状態になれば良いのですか？

重野　　：たとえば、総会でも理解していないのに手を挙げるなど。方向性をみんなで理解する事が一体感だと思います。

竹下　　：わかりました。一生懸命、意見対応をするのはいいのですが論点がずれています。本質というのは言葉ではない。一体感って何なのかから考えてください。一体感がない団体は退会者が多いと思う。拡大も大切であるが、退会者がいないということは、組織が機能していないわけではない。拡大が上手くいかないのは、やり方が悪い。今年の退会者は０人です。組織を司る委員会が現状をわかっていない。よりよくするために、魅力溢れるために何をするかを考えないと。

前田　　：顧問からありましたが、副理事長の方針をもっと読んで自分の言葉にしてほしいかなと思います。問題定義ももっと深く堀下げないといけないと思います。今はまだ言葉だけが散乱していると思います。

藏元　　：答弁に対して即座に回答しているのは良い事ではあるのですが、質問の意味を捉えて答弁しないと聞いている周りがわかりません。時間待つので、一度飲み込んで周りに共感してもらえるような、やり取りをお願いします。自分でどこまで調べているのかなと不安に思いました。私や副理事長の言葉だけでなく自分で調べたものをしっかりと反映して記載して頂けましたらと思います。

前田(大)：以上で２０１９年度　委員長事業計画　重野隆太君について　は締めせて頂きます。

協議事項　６：２０１９年度　委員長事業計画　板元　幸仁くん（案）について

木野田　：私の方針が定まらぬなかで、委員長は書きにくさもありますが作成しております。詳細は委員長より説明します。

板元　　：前回理事会赤文字・正副青文字で対応しております。

南郷　　：背景で質問です。会員拡大が成功していない理由は行動量のみというお考えでしょうか？

板元　　：方法もありますが根本でいうとここしかないのではないかと思っております。

田上　　：今の南郷財政のとこになりますが、拡大に対する意識の差というよりも本当にＪＣのことを良いと思っているのか？というところを副理事長は拾っていると思います。

板元　　:再度考えさせてください。

井上　　：今の部分ですが、言い換えると拡大に成功しているのであればしないのか？拡大成功してないから拡大頑張らないとねという背景になっている。地域に対して影響力をもつために拡大が必要だよねという感じで背景を考えてみてください。

常盤　　：２段落については、どこまでが事業なのか？年間通して何をするのかをもう少し整理して作成してもらえましたらと思います。

板元　　：一番下が広報の事業というイメージでありました。改めて副理事長と話をしてみます。

鈴吉　　：ＪＣＩシールを張るだけでは、何も伝わらないと思いますのでもう少し工夫をお願いします。また、行ってどうなるのかという部分を記載もらえましたらと思います。

前田　　：どうなるのか？という部分はしっかり記載してもらえましたらと思います。これでは、良し悪しがわかりません。

藏元　　：副理事長方針も変わりましたので、踏まえて修正してください。井上監事からもありましたが、組織の維持のための拡大ではなく、組織拡大がまちの発展に繋がるということを踏まえて考えて頂けましたらと思います。

前田(大)：以上で２０１９年度　委員長事業計画　板元幸仁くんについて　を閉じさせて頂きます。

板元：休憩動議

セコンド：橋・鈴吉

藏元：休憩動議を可とする皆様

全員一致

２２：０５まで休憩を可とされる理事の皆様は挙手をお願いします。

全員一致

それでは、２２：０５まで休憩とさせて頂きます。

協議事項　７：２０１９年度　委員長事業計画　盛田　啓仁くんについて

田上　　：上程が遅くなりまして申し訳ありませんでした。前回意見に対して対応しております。よろしくお願い致します。

盛田　　：２回目となります。よろしくお願い致します。

鈴吉　　：背景２段目の若い世代の投票率が低下傾向にあるところに表れている様にとありますが、若い世代は１６～２３歳とありますが、投票率は低下傾向とありますが、傾向というよりも低下なのかと思います。

盛田　　：低下という書き方で問題なければ

鈴吉　　：低下傾向について、選挙の投票率が低下しているからまちに関心がないという考え方でよろしかったですか？

盛田　　：投票率に表れているようにとしてありますように根拠的に記載しております。

鈴吉　　：ありがとうございます。

板元　　：地方創生が、冒頭にあるなかで背景の現状に反映されていない、繋がりがないと思います。

盛田　　：確かに繋がりが薄いと思いますので再考させて頂きます。

木野田　：副理事長の人口流出という現状に対して、方向性が違うと思います。

盛田　　：先ほどの部分と合わせて修正します。

常盤　　：目的の、２行目　情報収集し　とありますが、スタートしてから始めるのではなく事前にしておくべきことだと思います。

橋　　　：誰もが夢を描けるまちづくりの事業後のイメージを教えてください。

盛田　　：若い世代が自信をもって参画できるまちづくりです。

橋　　　：その手法を教えてください。

盛田　　：手法については、もう少し考えて記載したく思います。

橋　　　：２段目について、イメージが明確に出てくると良いと思います。

南郷　　：事業対象者を選んだ根拠を教えてください。

盛田　　：前回、若い世代を明確にとのことで１６～２３歳を選ばせて頂きました。

南郷　　：定義については？

盛田　　：自分も勉強不足でした。

常盤　　：今のところですが高校生・大学生だと思うのですが、具体的なイメージをもっ

　　　　てなぜ、その年齢の人なのかを考えてもらえましたらと思います。

井上　　：若い世代が、参画して人口力流出を食い止めるのはわかるのですが、若い世代

　　　　に郷土愛を育むための問題定義が弱いと思いますので、修正頂けましたらとてもきれいな背景になると思います。

前田　　：誰もが夢を描けるまちってどの様なまちなのかを委員長の中にもってないと事業計画は作れないと思います。自分の理想像を作らないとまちづくりは考えられないと思いますので、しっかりと自分の中で思い描いてもらえましたらと思います。

藏元　　：副理事長の中には事業のイメージがあると思いますので、田上理事長と話したうえで記載してください。また議案と関係ないのですが、指摘と対応の部分がどこの部分に対する指摘なのかわからないので、記載方法を副理事長に確認しながら明確にしてください。

前田(大)：以上で２０１９年度　委員長事業計画　盛田啓仁くんについて　を閉じさせて頂きます。

協議事項　８：２０１９年度　事業計画（案）について

前田(大)：お気付きの点がありましたらお願いします。

常盤　　：委員会名の記載をお願いします。

前田(大)：３委員長の方々、次回までに委員会名を決定し、記載してください。

　　　　他にありませんようでしたら２０１９年度　事業計画（案）について　閉じさせて頂きます。

前田（大）：それでは皆様、服装、姿勢を正してください。監事講評、井上正樹くん。

井上　　：皆さん、お疲れ様でした。第４回理事会ということで、田上副理事長の審議、おめでとうございます。委員長さんの方針も出てきまして、私も個別に委員長さん方とは話をしているのですが、先ほど竹下顧問が話をされた年間フレームですが、あれが基本方針の中に出てくるのが一番イメージしやすいのかなと思います。あのイメージが一年間の基本方針の中に出てきて、あれを見ながら基本方針を書いていくことができれば具体的に事業をイメージすることができると思います。事業を組み立てる上での一年間の動きが書いてありますので、整理しながら方針を書いていくことができると思います。次、また基本方針や計画書が出てくると思いますが、またみんなで頑張っていきたいと思います。お疲れ様でした。

前田（大）：監事、常盤大和くん。

常盤　　：皆さん、お疲れ様です。本日誰も欠席することなく、全員での出席、喜ばしいことだと思います。この調子で体調を整えて、次回も全員で行うことができたらと思います。まずは、田上副理事長につきまして審議通過おめでとうございます。残りの二人の副理事長につきましては、通らなくて残念というのももちろんあるのですが、あと２週間もっと良いものにできるという期間をいただいたと考えて、自分の議案もあるし委員長の議案も通さないといけないという大変な時期であるとは思いますが、そこは横のつながりということで、理事長、監事、顧問のご意見をいただきながら頑張っていただけたらと思います。また委員長の皆様方も、次回が審議になります。まだまだいっぱい変えないといけない箇所があると思いますが、ここが踏ん張りどころですので、あと二週間頑張っていただけたらと思います。前田理事長が先ほど話をされたと思うのですが、今、本年度の方は来年に引き継ぐための報告書等、来年に引き継ぐための作業を頑張ってくれています。ここにいる皆さんは来年ちゃんと引き継ぐために、まず１１月例会、ここにいる皆さんはほぼ全員、まだ盛田委員長の返事がないということを聞いてはいますが、出席ということですので、もちろん出席は当たり前なのですが、皆さん方針の中で一体感、拡大のための意識の統一という言葉がよく出てきていますので、ここでみんなに声をかけて、今の段階でスタートしている気持ちで１１月、１２月、そして来年１月を迎えられるように協力していただければと思います。体調を整えて、大変だとは思いますが、本年度あと２か月、頑張っていただけたらと思います。本日はお疲れ様でした。

次回開催

平成３０年１１月２１日　　第５回次年度正副理事長会議

平成３０年１１月２８日　　第５回次年度理事会

１７．閉会宣言　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　重野　隆太　君

議長・理事長（代表理事）　　　　藏元　国明　　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　鈴吉　　美絵　　　　　　　　㊞

議　事　録　署　名　人　　　　　重野　　隆太　　　　　　　　㊞

監　　　　　　　　　事　　　　　井上　正樹　　　　　　　　　㊞